

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-20	高等学校	数学科	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	数 I 183-901	よくわかる 新編数学 I		

1. 編修の基本方針

- ①既習事項を確認する教材を各章の冒頭に用意し、数学の系統性が実感できるようにした。既習事項をもとに主体的に見通しをもって学習に取り組めるようにした。
- ②当該科目に関する知識と技能を確実に身につけ、それらを活用して思考・判断・表現する能力を伸ばすために、記述や題材を工夫した。
- ③1つの題材に対して複数の考え方があることを適宜示し、いろいろな立場を尊重する態度を養うことができるようにした。
- ④生活に関連のある題材や数学を発展させた先人の業績について扱うことで、数学に対する興味・関心を高め、社会の形成・発展に主体的に関わろうとする態度を養うことができるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 章 数と式	・1つの題材に対して複数の考え方を比較検討する場面を設け、創造性を培えるようにした(第2号)。 ・生活との関連を重視し、ノートの代金やエレベーターに載せられる重量に関する課題を扱った(第2号)。	p. 23 p. 38、45
2 章 2次関数	・放物線が身近に見られる曲線であることに言及し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。 ・生活との関連を重視し、水槽の水の量の変化や針金で作る長方形に関する課題を扱った(第2号)。 ・1つの題材に対して複数の考え方を示し、創造性を培えるようにした(第2号)。	p. 51、76 p. 54、71 p. 92
3 章 図形と計量	・生活との関連を重視し、ケーブルカーや立木の高さ、山の高さに関する課題を扱った(第2号)。 ・1つの題材に対して複数の考え方を示し、創造性を培えるようにした(第2号)。 ・古くから知られている三角形の面積公式を話題として扱い、幅広い知識と教養を身に付け、伝統と文化や他国を尊重する態度を養えるようにした(第1号・第5号)。	p. 100 - 101、123 p. 103 - 104、111 p. 121
4 章 集合と論理	・$\sqrt{2}$が無理数であることの証明に関する話題を扱い、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。	p. 142

5 章 データの分析	- 生活との関連を重視し、立ち幅跳びの距離や 50m 走の時間、英語や数学の小テストの点数、右手と左手の握力の関係に関する課題を扱った（第 2 号）。 - 釣りに関する内容を扱い、自然を大切にし環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（第 4 号）。	p. 146 - 147、 154 - 157 p. 150、152 - 153
課題学習	- 不等式の解、2 次関数の最大・最小、三角形が解けるパターン、四角形の分類に関する課題を扱い、真理を求める態度や自他の協力を重んずる態度を養えるようにした（第 1 号・第 3 号）。 - コンピュータとデータの分析に関する課題を扱い、真理を求める態度を養い、創造性を培えるようにした（第 1 号・第 2 号）。	p. 164 - 167 p. 168 - 169
巻末	アルファベットと数字・記号の書き分けや記号の歴史に関する内容を扱い、幅広い知識と教養を身に付け、伝統と文化や他国を尊重する態度を養えるようにした（第 1 号・第 5 号）。	p. 201、206

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 各項目が主体的に取り組めるように「学習のねらい」を設けた。
- 読みにくい漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。
- 思考力、表現力、判断力を育成するために、協働的に取り組む「考えてみよう」、「話し合ってみよう」、「説明してみよう」、「調べてみよう」を本文や課題学習などに設けた。
- 生徒や先生のキャラクターを登場させ、親しみやすい教科書となるようにした。
- 基本的な知識と技能を習得するために、節末に「確認問題」、巻末に「補充問題」を設けた。
- 節末の「確認問題」を中心に、理解を促すための自由に利用できるコンテンツを用意した。
- 各章の学習内容を応用したり組み合わせたりして解く、挑戦しがいのある問題を巻末の「総合演習」で扱った。
- 巻末に、教科書で扱っている全ての問題の解答を掲載し、学習したことを確認できるようにした。
- 巻末のさくいんでは検索性を上げるため、用語に公式や図を添えた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-20	高等学校	数学科	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	数 I 183-901	よくわかる 新編数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 学習者にとって理解しやすい教科書

- ・教材の配列については、生徒が無理なく理解できるように十分配慮した。とくに、中学校までの学習内容とのつながりを重視し、既習事項の確認ができる「つながる数学」を設け、初出の内容の学習に主体的に取り組めるようにした。
- ・学習内容はできるだけ細分化し、段階を追って確実に知識や技能が身に付けられるようにした。
- ・天下り的な説明はできるだけ避け、具体例を通じて理解できるような記述にした。
- ・例題を解いた後に、「解法のポイント」として要点を振り返ることができるようにし、問題解決に活用できるようにした。
- ・計算の負担を軽減し、本質部分の理解に集中できるよう、十分配慮した。
- ・各節の標準的な内容については、繰り返し練習できるように、節末に「確認問題」、巻末に「補充問題」を設けた。
- ・理解を促すために、節末の「確認問題」を中心に、スマートフォンやタブレット、パソコンで自由に利用できるコンテンツを用意した。
- ・巻末に、教科書で扱っている全ての問題の解答を掲載し、学習したことを確認できるようにした。

(2) 数学への興味・関心を喚起し、数学的な見方・考え方を働かせることを促す教科書

- ・章扉で、各章における学習のつながりと目標を掲載するとともに、関連する動画コンテンツを用意し、スマートフォンやタブレット、パソコンで視聴できるようにした。
- ・各項目が主体的に取り組めるように「学習のねらい」を設けた。
- ・具体的な問題を解決する場面を取り上げ、数学的な見方・考え方のよさを感得できるようにした。
- ・思考力や表現力、判断力を育成するため、協働的に取り組む「考えてみよう」、「話し合ってみよう」、「説明してみよう」、「調べてみよう」を本文や課題学習などに設けた。
- ・節末や章末では、理解を深めるための問題や、本文に関連する興味深い内容も扱うようにした。

(3) ビジュアル面を工夫した、読みやすい教科書

- ・ユニバーサルデザインのフォントや配色を採用し、読みやすさの向上に努めた。
- ・公式などの重要事項は、太字にしたり枠で囲んだり、表にまとめたりして、強調するようにした。
- ・本文をカラーにしたり、図版・イラスト・アミ版などを適切に掲載したりして、視覚的な効果にも配慮した。また、生徒や先生のキャラクターを登場させ、親しみやすい教科書となるようにした。
- ・巻末のさくいんでは検索性を上げるため、用語に公式や図を添えた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1 章 数と式		p. 3 - 50、164	
1 節 式の展開と因数分解	(1) 数と式		
2 節 実数	ア (ア)、(ウ)、(エ)		26
3 節 1 次不等式	イ (イ)、(ウ)、(エ)		
課題学習			

2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次方程式・2次不等式 課題学習	(3) 二次関数 ア (ア)、(イ)、(ウ) イ (ア)、(イ)	p. 51 - 92、165	26
3章 図形と計量 1節 三角比 2節 図形の計量 課題学習	(2) 図形と計量 ア (ア)、(イ)、(ウ) イ (ア)、(イ)	p. 93 - 125、166	19
4章 集合と論理 1節 集合と論理 課題学習	(1) 数と式 ア (イ) イ (ア)	p. 126 - 142、167	9
5章 データの分析 1節 データの分析 課題学習	(4) データの分析 ア (ア)、(イ)、(ウ) イ (ア)、(イ)、(ウ)	p. 143 - 163、 168 - 169	10
		計	90
※年間授業時数を 90 時間として配当している。 ※該当箇所には、発展的な学習内容は含まない。			

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-20	高等学校	数学科	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	数 I 183-901	よくわかる 新編数学 I		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
26～27	3 次の乗法公式と 3 次式の 因数分解	1	(1) 数と式 「既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。」	2
37	二重根号をはずす	2	(1) 数と式 「既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。」	1
合計				3

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容